

令和8年6月18日

沼田町議会議長 小 峯 聡 様

産業福祉常任委員会
委員長 伊 藤 淳

産業福祉常任委員会 所管事務調査報告

本委員会は、申し出た案件について調査を終了したので、その結果を次のとおり
会議規則第77条の規定により報告する。

記

1. 調査目的

高齢者福祉施設の将来像

2. 調査の日程

令和7年	2月12日	第15回委員会	調査項目の選定
同	3月24日	第16回委員会	現状と課題の整理、視察の検討
同	4月30日	視察調査	
			沼田町特別養護老人ホーム旭寿園
			増毛町特別養護老人ホーム明和園
同	6月24日	第17回委員会	視察のまとめ、視察の検討
同	8月29日	第18回委員会	高齢者福祉施設プロジェクトチ ームとの懇談、視察の検討
同	9月30日	第19回委員会	高齢者福祉施設プロジェクトチ ームとの懇談まとめ、視察の確認
同	10月27日	視察調査	
	～28日		広尾町特別養護老人ホームつつじ苑
			足寄町特別養護老人ホームあゆみの里
同	11月10日	第20回委員会	視察のまとめ
令和8年	4月22日	第24回委員会	報告書のまとめ
同	4月30日	第25回委員会	報告書のまとめ
同	5月29日	第26回委員会	報告書のまとめ

3. 調査報告

沼田町は、令和2年度「沼田町公共施設のあり方」において高齢者福祉施設（養護老人ホーム和風園、特別養護老人ホーム旭寿園、グループホームなごみ）に対し、現在の施設機能を維持しつつ3施設全体での検討を要するとした。

沼田町の高齢化率は、令和5年に44.4%であるが国立社会保障・人口問題研究所によれば、令和32年に52.6%に上昇し、人口は2,859人から1,421人に減少するとの将来推計もあり、高齢者福祉施設の利用者確保が将来の課題となる可能性もある。

旭寿園は、昭和59年に建設し、これまでに増設と改修を実施したが、建物の老朽化、空調機器の未設や動線の改善などの環境整備により利用者や職員の負担軽減を図る必要がある。

なごみは、平成21年より地域密着型による認知症に対応したグループホームとして運営しているが、近年の人件費等の高騰で旭寿園同様厳しい施設運営であり、経営の改善が求められている。

和風園は、平成16年に現在の施設に改修され町民利用の高い施設であるが、大規模改修の目途である建築後30年を数年後に迎えることで、近い将来に多額の改修費用が想定される。

本委員会は、職員による高齢者福祉施設のプロジェクトチームと課題や意識を共有したいと考え意見交換を行ってきた。現在の規模のまま3施設を維持しても、もしくは集約しても多額な費用が予想されるため、医療を含めた介護福祉全般の連携と働きやすい職場環境を整備しつつ、効率化による見直しを行いながら地域包括ケアシステムの新しいビジョンに沿った施設計画が求められる。

増毛町立明和園は、養護老人ホームと特別養護老人ホームの併設型で社会福祉協議会が指定管理受託者として運営を行っている。両施設の大規模改修にあたり町議会及び理事者、職員による懇話会を立ち上げ、数年にわたり協議を重ね実施に至っている。

広尾町立特別養護老人ホームつつじ苑は、令和7年に地域密着型介護老人福祉施設として建設し、広尾町国保病院と廊下で直結している。周辺には民間介護ケアや障がい者福祉施設もある福祉ゾーンに集約され、夜間でも迅速な緊急対応が可能な施設である。

足寄町立特別養護老人ホームあゆみの里は、従来型とユニット型の機能を併せ持つ地域密着型介護老人福祉施設であるとともに外国人の登用で人材不足を補っている。施設は公営住宅や障がい者向け住宅などと同様に福祉ゾーンに集約されており、民間介護事業所や国保病院との連携も定期的実施している。

本町の福祉政策は農村型コンパクトエコタウン構想で推進している。今後の３施設の運営と方向性を健康福祉ゾーンの拠点である暮らしの安心センター周辺の一体的な活用が、安心、安全に暮らすことが出来るまちづくりに繋がると考える。

以上の調査結果を基に、高齢者福祉３施設を暮らしの安心センター周辺への集約を提案し、次の意見を付して調査報告とする。

（１）沼田版ＣＣＲＣ構想と沼田町農村型コンパクトエコタウン構想の融合

令和８年度において沼田版ＣＣＲＣ構想策定が予算計上されている。この構想では介護、医療、障がい者福祉など地域包括ケアシステムをさらに深化させ、都市部からの元気な高齢移住者と地域住民とのコミュニティの形成から自立、支援、介護のサービスを提供するなどとしている。事業推進するにあたっては生涯にわたり活躍できるメリットに加え、地方移住の決断を克服できる環境として、社会福祉と魅力的なまちづくりの視点を有した整備が必要と考える。

また、農村型コンパクトエコタウン構想により建設した暮らしの安心センターや高齢者住宅に、将来における公園整備の必要性を示し、町民の健康や体力増進による健康寿命の延伸と心豊かに暮らせる多世代間の交流拠点として、文化、スポーツ振興など町の中心的役割を担う健康福祉ゾーンとして検討を進めることを望む。

（２）高齢者福祉施設の再編

本町の介護福祉施設は高齢期の最後の砦であることから今後も存続させなければならない。旭寿園は建設から４２年経過しているなど、老朽化の観点からも一体化した施設へ集約することが必要と考える。

また、社会福祉協議会との更なる連携強化や、医療を安定的に提供することができる沼田厚生クリニックと接続した施設整備が必要である。在宅、通所介護の充実や訪問診療、ターミナルケアなどの機能を強化させ、推計人口や高齢化率に備えた地域密着型介護老人福祉施設の規模を検討する必要がある。

同時に旭寿園の解体費用の確保と、和風園やなごみの滞在型施設の再利用として障がい者福祉施設や住民福祉の向上に資する多様な施設などの活用が求められる。